

財団法人 黒潮生物研究財団

平成 25 年度（第 14 期）事業報告

I	事業記録	2
II	事業の内容	2
	1. 調査研究	2
	2. 自然環境保全対策	2
	3. 普及啓発	3
	4. 請負調査・委託事業等	3
	5. 業績	4
	6. 公益財団法人への移行	4

I 事業記録

日付	内容	担当
平成 24 年 4 月 5 日	第 3 回四国生物多様性会議プレミーティング(高知市)	岩瀬
4 月 9 日	大月町竜の浜における藻場造成実験調査・サンゴ分布調査	田中・目崎
4 月 10 日	宿毛湾ダイビング大月地区部会総会	中地
4 月 10 日	藻場・サンゴ分布調査(黒潮町田ノ浜)	田中・目崎
4 月 13 日	藻場・サンゴ分布調査(八幡浜市大島)	田中・目崎
4 月 18 日	[竜串自然再生]幹事会(土佐清水市竜串)	岩瀬・中地
4 月 18 日	【公益移行】認定書交付	
4 月 19 日	大月町竜の浜における藻場造成実験調査	田中
4 月 23 日	土佐清水市観光ボランティア例会 研修会(講演)	中地・小淵
4 月 26 日	藻場・サンゴ分布調査(宿毛市藻津)	田中・目崎
4 月 27 日	第 631 回自然科学教室 磯の観察会(研究所及び周辺)	中地・全員
4 月 30 日	公益移行のため特例法人解散	

II 事業の内容

1. 調査研究

(1) サンゴ及び海藻の分布に関する研究

高知県黒潮町田ノ浦、宿毛市藻津、愛媛県八幡浜市大島で調査を実施した。

(2) 大月町竜の浜における藻場造成実験

近年問題になっている磯焼けに対する対策として、ウニ駆除に一定の効果があることが確かめられているが、原因のひとつとして栄養塩やミネラル分の不足もあげられている。そこで実際に海域で、ウニ駆除・施肥・鉄添加の 3 条件によって藻類の繁茂状況に差が現れるかどうかの実験を行っている。宿毛湾藻場育成協議会の事業。

(3) 研究助成

今年度助成研究の選考を行った。

(4) 研究所利用者の受け入れ

千葉大学から 2 名、東海大学から 1 名の計 3 名による 21 人日の利用があった。

2. 自然環境保全対策

(1) 竜串自然再生プロジェクトへの参加と協力

4月18日に竜串自然再生協議会幹事会を開催し、平成24年度2～3月の自然再生関連活動についての報告、および平成25年度の活動予定についてについて情報を共有した。

また、4月15日に中国四国地方環境事務所から、定例の海藻相調査について、海藻類の繁茂時期である5月に実施する業務を請け負った。実際の調査は5月の予定。

3. 普及啓発

(1) 研究所における公開展示

昨年度に引き続き研究所1階廊下から階段壁面にかけて常設展示を継続している。

(2) 講演会・談話会・野外観察会等の開催

【協力事業】

○土佐清水市観光ボランティア例会（4月）研修会（中地・小湊）

日時：平成25年4月23日

場所：ジョン万資料館会議室（土佐清水市養老）

主催：土佐清水市観光ボランティア

内容：講話と情報交換

参加者：土佐清水市観光ボランティアメンバー14人

○第631回自然科学教室（平成25年度4月教室）（中地・岩瀬・目崎・小湊）

日時：平成25年4月27日

場所：黒潮生物研究所および西泊シウラの浜

主催：宇和島自然科学教室

内容：黒潮生物研究所での講話と西泊シウラの浜での磯の生き物観察

参加者：宇和島市内内の小学生4～6年生120人および引率教員13名

(3) 広報・出版

○和文機関誌「CURRENT」の発行

4月25日に14巻1号（通巻52）を発行した。

○マスコミ等への情報提供

【新聞への掲載】

《記事本文中に「黒潮生物研究所」あるいは「黒潮生物研究財団」があるもの》

・2013.04.21 毎日新聞 和歌山版

なるほドリ：海底でレモン色のお花畑が“満開”？

4. 請負調査・委託業務等

平成25年4月中に以下の業務を請負った。

○平成25年度竜串地区自然再生事業海藻相調査業務

契約先：中国四国地方環境事務所

契約期間：平成 25 年 4 月 15 日～平成 25 年 7 月 19 日
内 容：串自然再生のための海域モニタリング調査

5. 業績

(1) 著作

【機関誌等】

○黒潮生物研究財団機関誌 “CURRENT”

Vol. 14, no. 1 [通巻 52 号] (平成 25 年 4 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 表紙：トゲバネウミシダ *Antedon serrata*. p. 1.
- ・中地シュウ. 高知県大月町南岸での磯の生き物の利用と生物方言について (前編). pp. 2-5.
- ・目崎拓真. 私の愛するサンゴたち (四国編) No. 8 キクメイシモドキ *Oulastrea crispata*. p. 6
- ・田中幸記. 海藻の森をゆく No. 8 ヒジキ *Sargassum fusiform*. p. 6
- ・編集部. 「竜串海辺のガイドブックづくりプロジェクト」が始まりました. p. 7
- ・編集部. 『公益財団法人黒潮生物研究所』への移行. p. 7
- ・中地シュウ. ぶうぶ遊び. p. 8

(2) 講演等

○依頼講演等

- ・中地シュウ. 2013.04. 土佐清水の海を学ぶ「磯の生き物の利用と生物方言」. 土佐清水市観光ボランティア 4 月例会研修会 (土佐清水市)
- ・中地シュウ. 2013.04. 海辺で遊ぼう-磯の環境と生き物-. 第 631 回自然科学教室 (研究所)

6. 公益財団法人への移行

当財団は平成 12 年 4 月 28 日に高知県知事の認可によって設立された財団法人だが、平成 20 年 12 月に施行された公益法人制度改革 3 法により、平成 25 年 11 月までに新制度に則った法人に移行することが義務づけられた。そのため、平成 23 年度から本格的な移行手続きを開始し、平成 24 年 12 月 10 日に電子申請により内閣府に公益財団法人への移行を申請した。その後、申請書類等の数度の手直しを経て、平成 25 年 4 月 18 日付で移行の認定書 (府益担第 4566 号) が交付され、これをもとに平成 25 年 5 月 1 日付で公益財団法人黒潮生物研究所として移行登記が完了した。移行に伴い、法人の名称だけでなく、以下の内容が変更になった。

○財団の名称

(旧)：財団法人黒潮生物研究財団

(新)：公益財団法人黒潮生物研究所

○所管

(旧)：高知県知事

(新)：内閣総理大臣

○会計年度

(旧)：毎年4月1日～3月31日

(新)：毎年5月1日～4月30日

法人の所在地や連絡先などに変更はない。

なお、この移行に伴い、財団法人黒潮生物研究財団（特例財団法人）の最終年度は平成25年度（第14期）4月1日～4月30日となり、本年次報告書を作成した。